



2015～2016年度 ROTARY CLUB OF TOYOKAWA HOI CLUB WEEKLY

やらまいか

会長/小野喜明 幹事/度会尚志 会報委員会/廣田 篤・中村嘉輝 例会/毎週火曜日 12:30 豊川商工会議所

クラブテーマ 30周年記念事業を通じて、温故知新、上下一心
30周年記念事業を通じて、地域や国際にお返ししよう
30周年記念事業を通じて、友情と寛容を深めよう

事務局/豊川市豊川町辺通4-4 豊川商工会議所会館内 TEL0533-86-2535 Fax0533-86-8889 HP/<http://toyokawahoi.tank.jp>

本年度第39回 通算1431回 平成28年5月10日(火)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	4/19 修正出席率
		63名	32名	57.1%	100%

ゲスト: アジアクリエイト株式会社 代表取締役 佐藤邦男氏 ビジター: (なし)

★会長あいさつ

小野喜明会長



こんにちは。5月の連休もあけました。皆さん、じっくりとお休みになられたと思います。

5月はロータリーで言いますと青少年奉仕月間です。

私どものクラブの青少年奉仕は、ご存知のようにボラン・コラボの活動支援、地元のスポーツアスリート選手の応援など行っています。昨年は駅伝の応援をしました。本日の理事会で、豊川高校の今井月選手のオリンピック出場の激励金を贈呈することになりました。

青少年の犯罪について調べてみました。青少年の犯罪が減って来ています。11年前に年間の少年刑法犯犯罪で12万人が逮捕されたのですが、平成26年度が4万8千人だということです。3分の1に減っています。皆さんの印象ではいかがでしょうか。少年の凶悪犯罪が増えているような感じを持っていると思います。これには、マスコミの取り上げ方が、過去よりも大げさになっていることもあるかもしれません。警視庁の方は、減少してきたことは発表していますが、少年犯罪対象者を20歳から18歳に下げようと色々画策もあるようです。刑法を厳しくすれば良いかというのとは違う様に思います。皆さんは、自分たちの頃の方が、もっと悪かったと思う方もいると思います。その頃と何が違うのかというと、日本が豊かになったこと、昔に比べて色々な情報を知る事ができ、犯罪に対する意

識も高くなったのだと思います。ただ本当に減ったのかというと、不登校などは増えていると思われま。不登校の子が、必ずしも不良とか犯罪に走る訳でもありません。昔は、学校の来ない子は不良だと言われた時代もありました。社会のひずみが、犯罪行為までには至らないが、学校などのシステムからドロップアウトしている子どもの問題、大人の問題などあります。新しい見方をする必要もあると思います。

ロータリークラブとしての青少年奉仕活動も、そのような観点で取り組んで行く必要があると思います。ロータリー的には、青少年がボランティア活動に取り組める状況をつくるのが良いことだと思います。

★幹事報告

度会尚志幹事

5月理事会報告

例会臨時変更のお知らせ
台中松竹RCの会報の回覧
ガバナー月信5月号の回覧

★外部講師の卓話「安全体感研修概論」

アジアクリエイト(株) 佐藤邦男氏



こんにちは。私は静岡県伊豆半島西伊豆の出身です。風光明媚なところです。いろんな縁がありまして、現在は豊川で仕事をさせて頂いております。会

社はアジアクリエイティブ(株)と申しまして、平成元年に創業をしました。主に各種専用機を作っています。10年ほど前にある顧客からの要望で、労災を減らすことを目指した安全体感装置と言うものを初めて作り、現在550台を超える出荷累計となりました。このあたりについて、皆さんにご紹介する中で、少しでも企業での「安全」というテーマにお役にたてればと思っています。

安全と危険の考え方ですが、どこかで安全を見たという方いらっしゃいますか？安全第一とか良く言いますが、安全を見たという方はいないと思います。

例えば、車をゆっくり走らせると安全かという、そんなことはありません。ゆっくり走っていても自転車が飛び出してきました。機械が止まっていると安全ですか？ずっと動いていて、ある部分には熱があるので、そこを触れば火傷をします。

安全は、目では見えないと思っています。見えるのは危険だけです。今回、九州で大変な被害が出ています。ニュースを見ていると分かります。熊本城の城壁が崩れたりするのを見れば危険は見えます。でも安全は、残念ながら我々は見る事が出来ません。

安全とは何かというと、危険な状態を限りなく取り除いた「ある状態」が安全と言うことです。絶対安全は存在しません。皆さんが座っている椅子も99.9%大丈夫だと思いますが、ひょっとするとカクッと倒れるかもしれません。絶対に倒れないということはありません。つまり、我々の周りには危険しか存在しません。

平成26年度の全産業で、約12万人の方が労働災害にあっています。製造業だけで見ると、約2万7千人の方が労働災害で怪我などをされています。このうち亡くなられた方は、約180人います。180人ということは、365日のうち年間稼働日が200日前後になるので、おおよそ、1日1人の方が何らかの原因で亡くなられているという事になります。建設業は、もっと人数が多くなり、製造業の2倍ぐらいで年間360~370名ぐらいの方が亡くなられています。この地域は、豊橋、豊川、蒲郡、田原が一つの管轄で、昨年のデータでは、労働災害が620件、亡くなられた方が8名です。但し、この数字は受理されたものです。それは、届け出があったものという事ですので中には、届け出がなくカウントされて無い事例

もあり得ます。

自動車の交通事故は、1000人当たり6名と言われています。これに対しての労働災害は、1000人当たり9.4人とされています。よく道路で交通安全の啓蒙活動が行われていますが、むしろ労働災害を無くそう！と言う啓蒙活動がもっとさかんに行われても良いぐらいです。

4月に入って皆さんの会社にも新入社員さんが入られたと思います。新入社員が被災する確率が非常に高いです。1年以内に新入社員が被災する確率は約30%です。なぜ新入社員が被災するのか。それは危ない行動をとるからです。危ないことが分からないから、危ない行動をとります。経験が少ないので、危ないことが分からないからです。

一度、労働災害が発生すると、労働安全衛生法があり、その他、いろいろな法律が絡んできます。皆さん良くご存知のことだと思いますが刑法も、民法も、労働保険法も絡んできて、これらに対応することになります。素人では、全ての法律に対応するのは難しいと思います。例えば残念ながら、従業員が事故を起こしてしまったとします。従業員から会社が悪いと訴えるという状況が出た時に何が起るのか？安全義務違反という民法で訴えて来ます。監督署は企業側に安全義務違反がなかったかどうか、安全教育は完ぺきだったか、作業工程に無理はなかったか、全て聞いてきます。そこを企業側はやったということを立証しないとイケません。でも完璧に立証することは無理です。記録が残っていたとしても「絶対」はあり得ませんので企業が責任を逃れることは出来ません。訴えられたら、負けるというふうに理解された方が良いと思います。皆さんは、大変なリスクを持ちながら会社を経営しているという事になります。

私たちはミスをします。思い込み、勘違い、様々なミスをします。分かっているつもり、知っているつもりが事故に繋がります。そして、我々人間は忘れてしまいます。20分後に42%、1時間後には56%、1日後には74%、1週間後には76%、1ヶ月後には約8割を忘れると言われています。今日の例会の冒頭で、会長さんが挨拶されたことも、お帰りなる頃には42%忘れていたかもしれません。我々の周りは危険だらけですし、人間はミスをするし、1ヶ月で8割も忘れてしまうのです。こういう前提の中で、どのようにしたら良いの

かということです。

ここからは、私の会社の宣伝になりますが、労災を減らすには危険に気付くようにして頂くことです。それは、自分の持っている知識、経験、感性を鍛えて頂く、これを磨いて頂きたいと思います。特に感性が大事です。昔は第六感と言いました。見ただけで、危ないとか触ってはいけないとか分かるのが第六感です。小さな子どもは第六感がありません。だから周りが注意をします。第六感、つまり感性を鍛えるために、弊社の労働災害を疑似体験して頂く安全体感装置があります。

具体的には、1. 作業場所、機械装置そのものの危険を学ぶ装置があります。回転体巻き込まれ装置といって、直径 30 cm のローラーを低速回転や高速回転させ、回転するローラーに実際に疑似手を入れて引っ張ってみて、どのくらいの力が掛かるのか体感して頂きます。大抵の皆さん驚きます。2 年前には、豊川工業高校にこの機械を持ち込んで、生徒さんに体感してもらいました。又、直近の労働災害で一番多いのは、滑る、転がる原因です。滑り・転倒装置で足元を良く見る必要性を体感することができます。2. 分かっていたけど、忘れていたということを経験する目的の感電装置があります。ふだんはほとんど電気を触る事ありませんから、ちょっとビリッと来ると異常に反応します。ですので、実際に感電することを体感してもらいます。特に注意してもらいたいのは、左手で触らない事です。右手を使わないといけないという事を忘れていたのです。

社内の体験研修センターで半日コースを受講して頂きおよそ 30 種類の装置を用い、実際に挟んだり、衝撃を目で見たり、実体感したりして頂いています。一方でこのような装置を日本全国の企業に販売をしています。又、装置をレンタルするサービスもしており、社員は日本全国を飛び回っています。最近では、東南アジアの日系企業さんからお話を頂くこともあります。既にマレーシア、アメリカ、中国にも弊社の装置を出しています。

なぜ、このビジネスを始めたかということ、私自身が目の前で大変に大きな事故を起こしてしまった経験がきっかけです。それも含めまして、このような事故があってはならない

という想いを皆さんにどのように伝えたらよいかということから、安全体感装置と言うビジネスが始まりました。どの企業も、どのようにしたら従業員を労働災害から守ることが出来るのか？ということを実際に考えて頂いている、そんな時代になっているのだと思っています。

ご清聴ありがとうございました。

アジアクリエイト株式会社

<http://www.asia-create.jp/>

★ロータリーニュース

ローマ法王による特別ミサにロータリアンが出席



4月30日、フランシスコ・ローマ法王による特別ミサがバチカンで行われ、80カ国から約9,000人のロータリアンが出席しました。サンピエトロ大聖堂前の広場にロータリアンのための特別席が用意された今回の特別ミサで、ローマ法王は、慈悲の心、一体感、人類への奉仕を呼びかけました。

★ニコニコボックス

池田 弘会員	誕生日を祝って頂き
中西弘徳会員	〃
小田伊佐浩会員	〃
小野喜明会員	〃
伊藤正幸会員	〃
宇野秀幸会員	結婚記念日を祝って頂き
石黒貴也会員	〃
大沢茂樹会員	事業所創業を祝って頂き
水野太一会員	〃
柴田 勝会員	誕生日・結婚を祝って頂き

会報担当：廣田 篤会員・中村嘉輝会員